第４学年国語科「言葉で遊ぼう大会を開こう　－言葉遊びの世界－」単元構想図（総時数12時間）

本単元で必要とされる既習の基礎的・基本的な知識・技能

（１年）
「ことばって、おもしろいな」
①　物の名前の関係（上位語・下位語）

（２年）
「ことばって、おもしろいな」
②　擬声語、擬態語を利用した言葉遊び
「なかまのことばとかん字」
③　数、家族関係、季節、教科、時、方角を表す言葉

（３年）
「反対の意味の言葉」
④　対義語
「音訓遊び歌」
⑤　漢字の音と訓を利用した短文作り
「言葉って、おもしろいな」
⑥　漢字の成り立ちを利用した物語や歌の創作

（４年）
「にた言葉の意味」
⑦　類義語
「いろいろな意味をもつ言葉」
⑧　多義語

【指導計画】

時	主な学習活動・内容	基礎的・基本的な知識・技能及び考え方の活用		活用を促進するための手だて
1	言葉の「音」を利用した遊びについて知り、言葉遊びを行う。 A　言葉の音の性質を用いた言葉遊び(しゃれ、回文、折り句等) 言　しゃれ、回文、折り句から言葉遊びを選び、文を作る。	②⑤	言葉の「音」に着目して考え、リズミカルな文を作る。	言葉の「音」を利用した遊びに対する関心と理解を深めるために、しゃれ、回文、折り句の例を取り上げ、例にならって言葉遊びに取り組ませ、ワークシートにまとめさせる。
2	言葉の「意味」を手掛かりにした遊びについて知り、言葉遊びを行う。 B　言葉の意味の性質を用いた言葉遊び （なぞなぞ、なぞかけ、クロスワードパズル等） 言　なぞなぞ、なぞかけ、クロスワードパズルから言葉遊びを選び、文を作る。	A	言葉の「意味」に着目して考え、言葉で楽しむ遊びをつくり出す。	言葉の「意味」を利用した遊びに対する関心と理解を深めるために、なぞなぞ、なぞかけ、クロスワードパズルの例を取り上げ、例にならって言葉遊びに取り組ませ、ワークシートにまとめさせる。
3	俳句などの伝統的な言葉遊びを知り、取り組んでみたい活動を決める。 C　俳句の特質 言　音読をし、俳句の音やリズム、意味などについて話し合う。	A B	「音」に着目し、五・七・五音の区切りによる音のリズムに気付く。 これまでの言葉遊びを生かして、短文の中に自分の思いを表現していることに気付く。	五・七・五音の区切りによる音のリズムや俳句に込められた作者の思いに気付かせるために、繰り返し音読をさせる。また、気付きをワークシートにまとめさせるとともに、教室に掲示しておく。
4 5	選んだテーマに沿って、言葉遊びを調べたり創作したりする。 D　自分のテーマに沿って言葉遊びを調査し、創作すること 言　言葉遊びの準備や方法などについて、グループごとに話し合う。	A B C	それぞれの言葉遊びの手法を用いて、しゃれ、回文、なぞなぞ遊び、クロスワードパズル、折り句を考える。	言葉遊びの調査や創作に対する見通しをもたせるために、既習事項をまとめたワークシートを参考にするよう促す。また、言葉遊びに関する図書を用意しておく。
6	同じテーマのグループで、中間発表会をする。 E　分かりやすく伝える発表 言　発表の内容、仕方について、助言し合う。		言葉遊びの面白さを伝えられる発表を工夫する。	聞き手にとって分かりやすい発表とするために、同じテーマのグループ内で中間発表会を行い、改善点を助言し合うように促す。
7 8	よりよい作品・発表にするために、自分の言葉遊びを見直す。 F　相手や意図に応じたまとめ方の工夫 言　前時の助言をもとに、より分かりやすい発表にするために話し合う。	A B C D E	言葉の「音」や「意味」の性質を生かす観点から、作品や発表を見直す。	言葉の「音」や「意味」の性質がうまく生かされた言葉遊びにするために、助言を基に発表を改善するように促す。
9	同じテーマのグループで、リハーサルをする。 言　発表の練習をする。	E	聞き手にとって分かりやすい発表になるように練習する。	分かりやすい発表について、全体で確認し、視点を明確にしてリハーサルに臨めるようにする。
10	「言葉で遊ぼう大会」を開く。(前半) G　言葉の音や意味に着目し、言葉遊びに取り組むこと 言　言葉遊びを発表したり、友だちの発表に対して、意見や感想を述べたりする。	A B C D E F	しゃれ、回文、なぞなぞ遊び、クロスワードパズルを楽しむ。	発表者と聞き手がやり取りを楽しめるように、質疑応答の時間を確保する。
11 本 時	**「言葉で遊ぼう大会」を開く。(後半) ※　いろは歌のリズムを感じ取りながら読み、その特質を知る。 言　いろは歌を音読し、音やリズム、意味などについて話し合う。**	**A B C D E F**	**七・五音に区切ってリズミカルに読めること、意味があることに気付く。**	**七・五調のリズムであることに気付かせるために、音読をさせる。 いろは歌がすべての音を使って作られていることや、意味があることに気付かせるために、ヒントカードを用意する。**
12	「ニューいろは歌」をグループごとに話し合って作る。 言　グループで話し合い、平仮名の五十音を１回だけ使って、意味のある五七調の文を作る。	A B C D E F G	平仮名の五十音を１回だけ使って、意味のある七五調の文を作る。	学習活動が円滑に進むように、五十音のカードを用意する。